

## 枝豆の栽培 みずき野幼稚園(茨城県守谷市)

[3 歳児]

以前は、園全体の畑、4 歳児・5 歳児の畑という区別で、3 歳児は畑を持たず、園全体の畑の中で少しかわる程度だった。しかし、3 歳児の様子を見ていると、他の学年の取り組みに関心を持ち、種蒔きや水やりと一緒にやらせてもらっている姿が見られるようになった。子どもたちの「やってみよう！」という思いから、各学年クラスごとに畑を区分して、3 歳児も栽培活動を始めることにした。

事例:枝豆の栽培 [3 歳児]

子=3 歳児 保=保育者

### 枝豆の種を蒔く(4月下旬)

準備から子どもたちと一緒に始め、種は1人ずつ蒔く。初めての体験でとても新鮮に受け止める。子どもたちがいつも見ることができるよう、外遊びに出る際に必ず通るテラスにプランターを置く。

種の匂いを嗅ぐ。  
「変な臭い」  
「お豆の匂いがする」



### 芽が出たことに気付く(5月上旬)

芽が出たことに気付く、喜んで保育者に報告する。「これは豆なんだよ」と4 歳児に話す。

(その後)

「どんどん咲いてきた」「昨日よりもっと出てきた」「お豆のいい匂いする(自分で葉の匂いをかいで)」

### 大きくなってきた(6月上旬) <枝豆が大きくなるように、プランターの何本かを畑に移植する>

子:「大きくなったね。お空まで届くんじゃない?」

保:「そうだったら、どうやって採る?」

子:「はしごで採ればいいよ!」

子:「ちっちゃなイチゴみたいのがある。」 蕾のこと

子:「何かな?先生ここ触ってごらん。軟らかいよ」 茎のせん毛に触れて

保:「本当だね・・・柔らかいね」



### 異年齢児とのかかわり(6月下旬)

子:「虫がいる!」

5 歳児:「僕の家の本があるから持って来てあげるよ」後日虫が載っている部分をコピーして持って来る。

4 歳児が水やりをしている姿を見て、3 歳児もしようとする姿が多くなる。

### 葉っぱが枯れてきた(7月中旬)

子:「先生葉っぱが枯れてきたよ!採らないと枯れちゃうよ!!」

保:「葉っぱが枯れたから、もういいよ!の合図だね。今日収穫してみようね」

子:「うん!」

その後収穫をする。

大きくなったことを喜びながら大事そうに

収穫する。

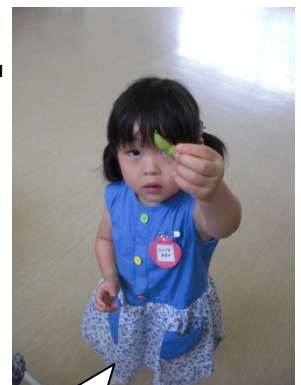
昼食時に収穫したものを塩茹でにして食べる。

保:「みんなの育てた枝豆茹でてきたよ」

子:「うわー!!」

子:「枝豆どうしてこんなに美味しかったんだろう」

子:「栄養があったからだよ」



採れたよ

### みどころ

子どもたちの姿から3 歳児の栽培物とのかかわりが期待できると考え、3 歳児も栽培を楽しめるように環境を整えています。また、栽培にかかわるモデルや刺激になる異年齢児とのかかわりも大切にしています。子どもたちは発芽や生長に気付いているだけでなく、匂いや軟らかさ、虫がいること、食べて美味しいことなど、様々な感覚・感性を働かせて3 歳児なりに意欲的に豊かな体験を重ねています。